

8月18日(土) 13時～16時30分

現代世界の変容と国際秩序の再編成

——米日帝国主義の衰退、BRICS台頭の意味

講師＝富山栄子 (国際交流平和フォーラム)
山下勇男 (社会主義理論研究)

会場：本郷文化フォーラムホール

参加費：1500円 (学生1000円)

HOWSは、カリキュラムの策定にあたって、講師をお願いしている複数の方々の協力をえて、前期・後期2度の校務委員会を開催している。世界と日本の情勢や運動上の課題などをめぐって、ざっくばらんに意見交換している。今回の講師である富山栄子さんもそのひとりである。

1年半前、2017年度前期の校務委員会は、概して悲観的な話題が多く出されたと記憶している。そういう雰囲気なかで富山さんがひとり、世界の反帝勢力の側から見た明るい材料、可能性のある見通しを語ったことがひときわ印象に残った。そうした認識を基礎に報告してもらったのが「国家の破壊はいかにして行なわれるか——シリア、イラクなどに対する米帝国主義の介入と増大する難民」(『社会評論』190号・2017秋)であった。

今回の講座はその続編にあたる。すぐる1年間

も世界は目まぐるしく変化した。劇的な朝米首脳会談が実現した。米帝国主義はいまなお経済力・軍事力ともに抜きん出た存在であるとはいえ、衰退への流れは覆うべくもない。台頭する中国やBRICS諸国、上海協力機構のような帝国主義抜きの国際関係の進展、非同盟諸国運動の力の発揮など、「世界構造の変動と国際秩序の再編成」は、もはや押しとどめることのできない歴史の趨勢となっている。

今回は、全般的な見取り図と見通しを富山さんが、統計手法をまじえた補足と中国の台頭を中心に山下が問題提起する。天下国家を論ずる機会のなんと少なくなったことか。志を高く持ち、世界を見る眼を培うために、今講座への参加を呼びかけます。

(山下勇男)

8月22日(水) 18時30分～21時

イヴリン・ウォー作 「**ディケンをズを愛した男**」(創元推理文庫『街角の書店』所収)

講師＝立野正裕 (元明治大学教員)